

## 地域再生プロジェクトの実施結果調書

市町村名	夕張市
------	-----

### 1 地域再生プロジェクト実施結果（プロジェクト全体）

（2年計画のうち2年目）

実施主体	市町村名：夕張市 民間団体名：夕張市社会福祉協議会、夕張市医師会	計	1 市町村 2 団体
プロジェクト名：	地域医療を守るための体制プロジェクト	格差の分野：	医療・福祉の格差
地域重点プロジェクトとの関連性	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 地域重点プロジェクト名 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	◆主な取組	○
地域の課題及び地域再生プロジェクトの目標	<p>◆ 地域の課題</p> <p>本市においては、平成18年度末をもって夕張市立病院が診療所に移行されたことに伴い人工透析治療が廃止されたため、当該患者は市外の医療機関への通院を余儀なくされており、多大な負担を強いている状況にある。また、市の財政再建団体入り以降、市民の間に医療体制への不安が広がっている状況下にある。高齢者比率が44.29%（H22.3末）と、道内では市町村合わせてトップ、国内の全市においても一番高いという状況は、今後の人口推計を鑑みると改善が困難であり、医療体制の再構築による安心なまちづくりへの方策は不可欠であるとする。</p> <p>◆ プロジェクトの目標</p> <p>少子化率、高齢化比率がいずれも全道一である本市においては、財政再建下においても、一次救急医療体制等最低限住民が安心して暮らしていける医療体制を構築することが必要であり、以て今後の人口流出をゆるやかにすることを目標とする。</p>		
取組の成果	<p>住民等の評価</p> <p>本プロジェクトの主旨は、本市の財政再建団体移行に伴い、市立病院の廃止による救急指定病院の不在や人工透析治療の取りやめ等による、市内医療体制への市民の不安の改善を行うことである。プロジェクト実施により、一次救急に関しては昼夜を問わず受け入れ体制の整備ができたことや、透析患者の移送が継続的に可能となったことなどに対し、住民の評価を得ているものとする。</p>		
	<p>計画に対する達成度</p> <p>市民の安全安心確保のため今後も本事業は継続する必要があるが、取り組みとしては計画どおりに推進できたものとする。</p> <p>具体的な効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内医療機関の協力による24時間一次救急医療体制を確保できた。 （一次救急搬送のうち市内での搬入率 H23 44%）</li> <li>・コンビニ受診や不必要な救急車の呼び出しの減少など、市民の市内医療体制について考え継続させる意識が芽生えた。 （救急搬送件数 H21：561件→H23：517件）</li> </ul>	<p>交付金支援期間終了時の成果目標に対する現時点での達成状況</p> <p>高齢者人口比率 H22.3 44.29% → H24.3末 44.84%</p>	
プロジェクト推進上の課題・問題点	<p>課題点等</p> <p>財政再建下においても最低限の一次救急体制の確保は継続して行う必要があり、高齢者人口比率全道一かつ人口減少下にある本市では、その重要度は一層増してくるものとする。</p> <p>課題を踏まえた今後の展開</p> <p>医師不足により、医療機能の分担と連携は今後ますます求められる中、過疎地域における一次救急医療体制の確保は終わりのない課題と捉えており、各医療機関の連携、市民の理解・協力による医療体制の構築を図っていく必要がある。</p>		

## 2 地域再生プロジェクト構成事業

### (1) 実績額について

(単位：千円)

No	事業名 実施主体名	実施期間	年次	事業費	財 源 内 訳						交付金 要望額	
					国庫補助 金等	道補助 金等	市町村補助等		市町村 自己財源	民間等 自己財源		その他
							補助金等	委託費				
1	じん臓機能障害者通 院移送支援事業  夕張市・市社会福祉協議会（公）	2 2 ） 2 3	全体計画	2,161			2,161				2,075	
			初年度（H22）	966			966				960	
			2年度目（H23）	1,195			1,195				1,115	
			（ ）									
2	初期救急確保対策事 業  夕張市・市内診療所（企）	2 2 ） 2 3	全体計画	5,432			5,432				5,432	
			初年度（H22）	2,492			2,492				2,492	
			2年度目（H23）	2,940			2,940				2,940	
			（ ）									
3	休日・夜間救急医療 体制補助事業  夕張市・医師会（公）	2 2 ） 2 3	全体計画	1,694			1,694				1,693	
			初年度（H22）	849			849				848	
			2年度目（H23）	845			845				845	
			（ ）									
4	救急医療情報キット 推進業務  夕張市・市社会福祉協議会（公）	2 2 ） 2 3	全体計画	400			200		200			
			初年度（H22）	200			200		0			
			2年度目（H23）	200			0		200			
			（ ）									
5		）	全体計画									
			初年度（ ）									
			2年度目（ ）									
			（ ）									
6		）	全体計画									
			初年度（ ）									
			2年度目（ ）									
			（ ）									
計	事業数 [ 4 ]		全体計画	9,687			9,487		200		9,200	
			初年度（H22）	4,507			4,507				4,300	
			2年度目（H23）	5,180			4,980		200		4,900	
			（ ）									

注 1 プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。

2 平成21年度以前の地域再生チャレンジ交付金で採択された地域再生プロジェクトは、計画期間に応じて「年次」最下欄に3年度目を追記すること。

3 「事業費」、「財源内訳」及び「交付金要望額」欄は実績額又は予定額を記載すること。

4 その他記載に当たっては、別記第2号様式に準じること。

(2) 実施内容について

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
1	じん臓機能障害者通院移送支援事業	透析患者の市外通院支援のため、自己負担分を除いたバス移送経費について助成を行う。	初年度(H22)	市内じん臓機能障害者(透析患者)13名を週3回のペースでバス移送を行っている。	市内透析患者については、市立病院の閉院により市外への通院を余儀なくされているが、当該患者の通院に係る負担を軽減し、継続的な移送体制の道筋をつけることが可能となった。	じん臓機能障害については完治が難しいため継続的な治療が必要であり、今後とも本事業を継続する必要がある。
			2年度目(H23)	市内じん臓機能障害者(透析患者)10名を週3回のペースでバス移送を行った。	市内透析患者の通院に係る負担を軽減し、継続的な移送体制の道筋をつけることができた。	じん臓機能障害については完治が難しく継続的な治療が必要であるが、本事業終了後も継続した取組を行うことができるよう、努めていく。
			( )			
2	初期救急確保対策事業	在宅・当番医体制以外の深夜・休日における初期救急医療体制確保のため、必要な経費の助成を行う。	初年度(H22)	在宅当番医体制以外の時間帯(平日深夜・休日深夜等)における救急患者の受け入れを年間89件(本事業対象部分のみ)行った。	市内医療機関の協力体制を構築することにより、平日深夜・休日夜間等の救急医療の体制整備を図ることができた。	救急指定病院を持たず、かつ近隣市町まで車で30分以上かかる本市にとって、各医療機関が連携した一次救急の確保は必須であり、今後とも本事業を継続する必要がある。
			2年度目(H23)	在宅当番医体制以外の時間帯(平日深夜・休日深夜等)における救急患者の受け入れを年間105件(本事業対象部分のみ)行った。	市内医療機関の協力体制を構築することにより、平日深夜・休日夜間等の救急医療の体制整備を継続し、救急医療体制を確保することができた。	本市では、各医療機関の連携による一次救急は必須であり、今後も本事業を継続し、市民の救急医療体制を確保できるよう、努めていく。
			( )			
3	休日・夜間救急医療体制補助事業	休日・平日夜間等の救急急病患者的の医療体制(在宅当番医体制)確保のため、必要な経費の助成を行う。	初年度(H22)	平日夜間200日、休日50日について市内医療機関が当番医体制を構築し救急医療にあたった。(平日4機関、休日5機関の当番医体制)	市内医療機関の協力体制を構築することにより、休日・平日夜間等の救急医療の体制整備を図ることができた。	救急指定病院を持たず、かつ近隣市町まで車で30分以上かかる本市にとって、各医療機関が連携した一次救急の確保は必須であり、今後とも本事業を継続する必要がある。
			2年度目(H23)	平日夜間191日、休日50日について市内医療機関が当番医体制を構築し救急医療にあたった。(平日4機関、休日5機関の当番医体制)	市内医療機関の協力体制を構築することにより、休日・平日夜間等の救急医療の体制整備を継続し、救急医療体制を確保することができた。	本市では、各医療機関の連携による一次救急は必須であり、今後も本事業を継続し、市民の救急医療体制を確保できるよう、努めていく。
			( )			
4	救急医療情報キット推進業務	独居老人等の救急時における迅速な医療体制確保のため「医療情報キット」の配置を進めるもの。	初年度(H22)	家庭配置用のほか携帯用の「医療情報キット」を整備し、市内独居高齢者を中心に183名の配布を行った。	独居老人等に対する救急時の迅速な医療体制構築の一助となった。今後の更なる普及のための啓発と、医療情報更新の周知・とりまとめが今後の課題である。	高齢化が著しい本市にとって、独居老人等の救急医療をスムーズに行うためにも本事業は有効と考え、継続する必要がある。
			2年度目(H23)	家庭配置用のほか携帯用の「医療情報キット」を整備し、市内独居高齢者を中心に累計702名の配布を行った。	独居老人等に対する救急時の迅速な医療体制構築の一助となった。今後の更なる普及のための啓発と、医療情報更新の周知・とりまとめが今後の課題である。	高齢化が著しい本市にとって、独居老人等の救急医療をスムーズに行うためにも本事業は有効と考え、継続した取組を進めていく。
			( )			

- 注 1 (1)に記載した番号に対応する事業について、プロジェクトの期間を通じて、実施状況及び効果や課題を踏まえた今後の事業展開を記載すること。  
 2 平成21年度以前の地域再生チャレンジ交付金で採択された地域再生プロジェクトは、計画期間に応じて「年次」最下欄に3年度目を追記すること。